

触(ふれ)とは？ 浦(うら)とは？

壱岐には、地名の最後に触(ふれ)もしくは浦(うら)がつきます。

例) 壱岐市○○町△△触・壱岐市□□町××浦

壱岐独特の地名である“触(ふれ)”にまつわる由来はいくつか存在しますが、どの説が真なのかは定かではありません。

■触の由来 1

中世の壱岐は『100の村』に分かれていた歴史に始まり、江戸時代に『24村 98触』に区分された記録が残っています。この『100の村≒98触』の数字が近いことから、昔の村が触になったという説があります。“村”は古代において“ムレ”と読まれていた発音のなごりで“フレ＝触”になったのではないかとわれています。

■触の由来 2

江戸時代の享保年間(1716~1734年)に藩が制定した行政区画のなごりといわれています。藩から庄屋への“通達文書”を“お触書”と呼び、そのお触書を村に伝える役職を触役(ふれやく)と呼んでいました。その触役が担当した区域を触とした結果、その区割りが現在まで残ったという説があります。

その他にも、韓国語で集落を意味する言葉が“プルもしくはプリ”と発音することから、その影響を受けて集落の単位が“フレ”となったという説もあります。また、触れられる範囲(=協力し合える範囲)を1単位としたことからフレ(=触)とした結果、現在の地名になったという説もあります。

触(ふれ)とは？ 浦(うら)とは？

触と浦の違い？

触と浦の違い？

触は、主に農村地域の集落を示します

浦は、主に漁村地域の集落を示します

例外も存在しますが、大きく分けるとこのように区分できます。